

第8回横浜トリエンナーレ／ヤマガタ・トゥイークスター（山形童子）×松本哉トーク

8th Yokohama Triennale / Yamagata Tweakster in Conversation with Matsumoto Hajime

開催日時：2024年5月11日

Date: May 11, 2024



(撮影：大野隆介)

江上賢一郎（東京藝術大学 特任助教）：では、時間になりましたので始めさせていただきます。今日は、お休みの日の中お越しいただきありがとうございます。今日のトークの司会をする、江上賢一郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は、ゲストとして、ここにいらっしゃるお二方と、あと今政肇さんに韓国語と日本語の通訳をしていただきます。まず、順番にご紹介いたします。今日、韓国から来ていただいたミュージシャン/パフォーマーのヤマガタ・トゥイークスターさん、ハンバさんです。どうぞ。

ハンバさんは、後でご自身からも少し紹介してもらえますけれども、ソウルでずっと音楽活動をされていて、現在開催中のこの第8回横浜トリエンナーレの中の、行かれた方もいると思うんですけれども、旧第一銀行会場に出品作家として参加されています。次に、お隣にいるのがもう一人、今回このトリエンナーレに出品作家として参加している、高円寺のリサイクルショップ「素人の乱」店長の松本哉さんです。

松本哉（本展参加アーティスト）：どうも、どうも、初めまして。

江上：最後に、通訳をしていただく今政肇さんです。よろしくお願いします。今政さんも韓国と日本両方の社会運動について、すごく詳しく知っていらっしゃるの、ちょっとあまり役割分担をせずに、みんなで話すような会にしたいと思います。

まず、このトリエンナーレの中で、私が「Thinking Partner（考える仲間）」という形の役割で、この旧第一銀行会場の中でアジアのいろんなアーティストに限らない、さまざまな文化的な活動をしている人たちを紹介するというセクションを担当させてもらったんですけれども。どういった人たちを紹介できるかなと考えた時に、やっぱり1つ、韓国の中で長年……アーティスト、絵を描いたりというビジュアルのアーティストではないんですけれども、音楽という表現を通じて何かしら社会に対して問いかけをするであったり、いろんな問題提起をしていくというような活動をしている人たち、とりわけ旧第一銀行の中ではあまりアートという枠にこだわらないで、いろんな形で違う社会の在り方とか世界の在り方というのを考えて、なおかつ、それを実際にやってみる人たちというのを紹介したいなと思っていました。ですので、ぜひヤマガタさんも韓国の実際の彼の活動を紹介したいなということもありました。

また松本さんは松本さんで、本当に長年日本の社会運動の分野であったり、あとはまちづくり、そういった分野でずっと活動されてきたので紹介したいというのがあったんですけれど。同時に、やっぱり2人が実は長い間友人というか、長い時間お互いのことを知っていて、ヤマガタさんも非常に日本によく来られていたり、松本さん自身もよく韓国に行き行って出会ったりしているんですね。

不思議なというか、出会う場所というのがそれぞれすごくある特定の課題を抱えている場所で、いろんな若い人たちであったり、表現者が集まって何か活動をするとか、自分たちの場所・スペースを作るであったり、何かそういった課題に対して関わるような場所に出会っているんですよね。だから、どこでも出会うというよりも、何かそういった課題に対して関わろうとするような、そういった磁場があるところで出会っているというのがすごく面白いなと思って、今日はそういった日本と韓国のそれぞれ社会運動と言っているのかどうか分からないんですけれども、社会に対する関わりとか、自分たちで別の世界であったり、別の社会の仕組みを作っていく、みたいなことを考えている人たちが、実はアジアのいろんな場所において、お互いが実はつながっているんだということもトークの中でも後程お聞きしたいなと思っています。

まず、今日、さっきちょうどヤマガタさんの旧第一銀行からこの横浜美術館に来る路上のパフォーマンスが初めてあったんですけども、参加された方はどれくらい？……ほぼみんなが参加しているということで、ヤマガタさんの活動を知っている方が結構いらっしゃると思うんですけども、改めてヤマガタさんに自己紹介をしてもらって、あとは今日のパフォーマンスがどういう感触だったのかとか、あとは日本でパフォーマンスをやるということと韓国の違いみたいなところから、少し話を聞いていければなと思っています。どうぞよろしくお願いします。



(撮影：大野隆介)

ヤマガタ・トゥイクスター/山形童子（本展参加アーティスト）：반갑습니다. 야마가타 트웍스터로 한국, 서울에서 주로 활동하고 있고요. 이렇게 요코하마에서 여러분과 함께 행진을 하면서 노래하고, 특히나 우리의 메시지를 거리로 표현하고, 춤과 노래로 할 수 있어서 대단히 영광이었습니다.

お会いできてうれしいです。ヤマガタ・トゥイクスターと申します。ソウルを中心に活動しています。今回、横浜に来て、こうやって行進をすることができて、特に路上で踊ったり歌ったりしてメッセージを伝えることができて、本当に光栄だと思っています。

감사합니다. 도쿄와 오사카에서도 함께 했었고, 일본의 여러 지역에서, 특히 거리에서 함께 했었는데, 저한테는 정말 잊을 수 없는 그런 퍼포먼스의 시간이었던 것 같습니다.

ありがとうございます。私は東京や大阪、日本のいろんな地域で路上パフォーマンスをしてきましたが、今日は本当に忘れられないパフォーマンスになったと思います。

문화와 언어가 다르지만, 연대할 수 있다. 그 가능성을 여러분과 함께하면서 깨닫는 시간이었기 때문입니다.

文化や言語が違って、連帯することができる。皆さんと一緒にできると感じる事ができた、そういうパフォーマンスでした。

특히 우리가 행진할 때, 퍼레이드할 때, 의상이나 여러 가지 준비를 해오시잖아요. 이런 것들이 한국과 확실히 차이가 있는 것 같습니다.

特にパレードをする時に、皆さん、衣装などの準備をして来られますよね。そういうところが韓国と明確に違うところです。

한국은 직접적으로 정말 대모처럼 투쟁이 중심이라면, 거기에 음악은 서포트하는 느낌이라면, 여기서는 음악도 하나의, 표현의 주요 매체로서 퍼포먼스에 함께 한다는 그런 느낌이 더 강한 것 같습니다.

韓国では、もっと闘争する感じがメインで、音楽というのはそれをサポートする役割なのですが、日本では、音楽も表現の主要な媒体としてパフォーマンスが成り立っているのだなと感じます。

메시지는 국경을 넘어서 동일한 것 같고요. 그걸 어떻게 표현하는지가 조금 차이가 있는 것 같고, 그 메시지가 우리 이웃들에게 전해질 수 있는가, 그런 부분에서 일본에 계신 많은 부분들이 조금 더 다양한 노력을 하고 계신다는 것을 확실히 느낍니다.

国境を越えてもメッセージは同じだと思います。けれども、それをどう表現するかに少し違いがあると思います。そのメッセージを周囲に伝えるか、そういった点で、日本では少し多様な取り組みが進んでいるように感じます。

이번 행진을 위해서는 가자지구, 특히 가자지구의 학살이 한시라도 빨리 멈춰야 한다는 메시지를 전하고 싶었고, 그래서 전쟁을 반대하고 총을 내려놓자는 곡을 준비했습니다. 이것은 사전에 몇몇분과 소통한 부분도 있었습니다.

今回のパフォーマンスでは、ガザの虐殺を一刻も早く止めようというメッセージを送りたかったので、戦争に反対して銃を捨てようという、歌を用意しました。事前に数人とこういう話を一緒にしました。

늘 제가 다수와 함께한다고는 생각하지 않습니다. 소수와 함께한다고 생각하고, 그 소수의 이야기, 메시지를 좀 더 확실하게 이 거리로 표현해 내야 한다고 생각하고.

여기에서 여러분과 함께하는 것에 큰 힘을 얻습니다.

私はいつも多数派に賛同しているとは思っていません。私たちはマイノリティとこそ共にあるべきであって、その少数派の物語やメッセージをもっと明確に表現する必要があると思います。今ここで、皆さんと一緒にいることに大きな力をもらっています。

우리 끝까지 연대합시다.

私たちは最後まで連帯しましょう。

江上：ハンバさん、ありがとうございます。今日、僕もパフォーマンスに参加をしていて、本当にそういうメッセージがすごくはっきりしていたなど。戦争反対とガザの虐殺をやめろということがはっきりしていたんですけども。僕がハンバさんのパフォーマンスを初めて見たのはソウルに行った時で、その時に松本さんと一緒にソウルに行っていてハンバさんのパフォーマンスを見ていたんですけども。

松本さんもやっぱり自分の高円寺の活動として、さっき言った音楽……本人は音楽はしないんですけども、サウンドカーであったり、サウンドデモという形で音楽を使っていろんなイベントを企画したり、あと、デモ自体に音楽というものを通していろんなものを伝えるということ活動をしていました。松本さんから見て、最初にハンバさんと出会ったきっかけとか、今日はほぼパフォーマンスの行進の最後に「呑んべえ号」で待ち構える感じだったんですけど、まず今日の感想から。

松本：そうですね、今日の感想……とりあえず「呑んべえ号」、居酒屋号で待ち構える役目だったのでちょっとあんまりちゃんとパフォーマンスが見られなかったから、なかなか今日どんな感じだったのか分からなかったんですけど。とりあえず、この異様な空間があるじゃないですか。外のファミリーたちが楽しそうな。高円寺から来たんですけど、高円寺とか、あるいは野毛とか、あっちのほうの呑兵衛の人たちからすると、異様な平和の象徴みたいところに「呑んべえ号」がいて、ものすごい浮いた状態で、ちびっ子たちが恐れながら遠巻きに見ているみたいな。その状況の中で、心細い思いをしている中でヤマガタたちが大量に押し寄せてきて、「わー、やっと助けが来たー！」みたいな感じがして、アンダーグラウンド文化の人たちがやっと集まってきて心強いというか、「やっぱりこれだ。うちのやっていることは間違っていなかったんだ」という気持ちで、ちょっと楽しかったですね、今日は。

江上：「助けが来たー！」と思っていたんですね（笑）。

松本：「助けが来たー！」と。



路上パフォーマンスの様子（2024年5月11日）（撮影：大野隆介）

江上：でも、やっぱり松本さんが最初にヤマガタさんと出会ったきっかけとか、彼のパフォーマンスを見て、何回か高円寺にも呼んだりしたこともあったんですけど、どういった点でそういう彼の活動に関心を持ったというか。

松本：ヤマガタさんのすごいというか、すごい面白いなと思うのは、やっぱり路上とかでやって、その辺にいる訳分らない人たちもどんどん巻き込もうみたいな感じがあるじゃないですか。だから、あの辺って俺はすごい大事だと思っていて。例えば、社会的なメッセージとかも言って、それに賛同する人たちって集まってくるじゃないですか。結局、そういう人たちが集まって、そういう人たちだけでやってもなかなか広がらない。

そういう中で、外とか実際の社会の中にどんどん入って行って、いろんなことを……それを初めて見る「何だ、これ？」みたいな人たちとバーンと出会って、それで巻き込んだりとか、あるいは巻き込まれなくて、「何だ!？」みたいな喧嘩になる時もあるかもしれないけど、そういういろんな実際の社会に出て、そこでいろんなつながりを求めるというところをすごい大事にしていると思うので、だからたぶんストリートでやっていると思うんだけど、その辺の感覚というのが俺はすごい好きで。

だから、うちらもなるべく、例えば東京の高円寺で店をやったりとかいうのも、やっぱり訳分らない、ただ呑んでくれている人とか、ただその辺を歩いている人とかとどれ

だけその中で一緒にできてやっていくかみたいなの。かといって、変に偉そうに教えたいとかじゃないんだよ。じゃなくて、そういう人たちと一緒に何ができるかみたいなのを模索したいところがあるから、その辺の感覚がやっぱりすごい面白いなと思って。

江上：似ているというか。

松本：うん。面白いなと思って、そこでやっぱり仲良くなったというか。

江上：わかりました、ありがとうございます。だから、そういった例えば社会に与えられたパフォーマンスとか音楽とかの役割からちょっとはみ出して、実際に街に出る、路上に出るということが僕は二人ともすごく共通点があるのかなと思うんですけども。ヤマガタさんは、韓国でこういった外に出るパフォーマンスというのをいつぐらいから、どういうきっかけで始めようとしたのかということと、あと、それを見て普通の人たち、それを見た人たちの反応ってやっぱり日本と結構違うんじゃないかなと僕は思うんですけど、韓国の人たちってどういった反応をされるんですか。

ヤマガタ：일단 저도 원래 이렇진 않았고요. 원래는 클럽 안에서만 공연을 했었는데, 두리반 투쟁에 함께 하면서 이런 스타일이 나오게 된 것 같아요.

私はもともとこういうことをしていたわけではなくて、クラブの中でしか演奏をしていなかったんですが。このスタイルは「ドゥリバン闘争」というのがあったんですけども、それに参加した時に出てきたんだと思います。

두리반 식당이 강제 철거를 당했는데 그러면서 아무것도 없는 그런 공간에서 공연을 했거든요.

ドゥリバンは食堂だったんですけども、そこが強制立ち退きに遭いまして、何もない空間で演奏しました。

그 안에서 하니까 열기가 마치 폭발하듯이, 냄비에서 물이 끓어서 증기가 나오듯이 바로 밖으로 나올 수밖에 없는 그런 상황이 되더라고요. 밖으로 나와서 두리반의 투쟁을 알리고, 그렇게 하면서 우리가 이 안에서만 할 게 아니라, 우리 안에서만 할 게 아니라 밖으로 나와서 알려야겠다, 이런 감각이 생겼던 것 같아요.

中でやっているのと、熱気がすごくて、鍋から湯気が沸騰して出てくるように、私たちも外に出てきました。私たちはドゥリバン闘争について人々に知ってもらうべきだと感じていたと思います。外に出ることで私たち自身だけで中で演奏するだけでなく、外の人々に知ってもらうべきだという感覚が生まれました。

그래서 두리반에서 그런 방식으로 계속하다가 오히려 그게 저한테는 맞으니까 다른 클럽에서도 공연하다가 밖에 나가고, 모든 것들이 밖으로 나가는 그런 스타일이 되었고. 그게 일본에서도 그대로 했었고요. 한국에서도 했었고. 다들 처음에는 적응을 못 합니다. 이게 뭐냐고 다들 놀라는데, 한국에서는 바로 적응을 해서 대중 감각적으로 아시게 되는 것 같아요. 그래서 그 자리에서 바로 축제가 되기도 하고 그랬던 것 같아요.

そして、ドゥリバンでそういう風にやり続けていたら、むしろそれが私には合っていたので、他のクラブで演奏する時も外に出て、全てが外に出るというスタイルになりました。日本でもそのままやりました。みんな最初は慣れないんです。「これ、なんだ？」ってびっくりするんですけど、韓国ではすぐに適応するというか、大体感覚的に分かるようになるんですね。だからその場ですぐにお祭り状態になったり、そういうことがありました。

일본에 와서도 큰 충격을 받으실 걸 기대했는데 밖으로 나가서 우리가 함께 정말 축제처럼 놀 수 있을까 걱정을 했는데 일본에서도 똑같이 그렇게 할 수 있었던 게 너무 좋았던 것 같아요.

日本に来た時は大きなショックを予想していたのですが……外に出て、一緒に本当にお祭りのようにできるのかどうか心配してたのですが、やってみると日本でも同じようにできてとても良かったと思います。

우리 안에는 기본적으로 밖으로 나가려는 그런 성향들이 다 내재해 있는 것이 아닌가 하는 생각을 했습니다.

ですから、私たちの中には、基本的に外に出ようとする性質のようなものが内在しているのではないかと思います。

江上：ありがとうございます。ドゥリバンという、さっきハンバさんが出してきた場所ですが、もともとソウルで再開発の立ち退き反対をしている夫婦がいて、カルグクスという、うどん屋さんの立ち退き反対に、ハンバさんであったり、若い音楽家たちであったり、表現者たちが支援して、そこでずっと占拠するという活動があったんですけれども。これに実は松本さんも行っていましたよね？

松本：行きましたよ。行きました、行きました。

江上：それで、すごいその当時、このドゥリバンがすごい、すごいということをひたす

ら日本に帰ってきて言い続けて。こっちは何のことか、「何、それ？」みたいな感じだったんですけど、やっぱりその結構印象が強かったんじゃないんですかね？

松本：そうそう。再開発の地域って弘大という場所で、割と今は渋谷みたいな、若い人たちが集まる結構商業の街みたいになっているんだけど、その当時、15年くらい前は結構アンダーグラウンドカルチャーの街みたいな感じで、ライブハウスがあったり、すごい小さい芸術家の人たちがやっていたりとか、そんなに商業の街じゃない、アンダーグラウンドカルチャーの街だったんだけど。そこをすごい大通りが通って、すごい地下鉄みたいなのが通ったりとかすごい開発して、どんどん大きい街にしていくとなった時に、やっぱり磁場が良くて、もともとアーティストとかミュージシャンとか、そういうアンダーグラウンド系の人たちが大量にいた場所だから、その辺の人たちが、「いや、ここをそんな街にするのは冗談じゃねえ」みたいな、そういうモチベーションがあった時に、道路になる予定地のうどん屋さんが立ち退き反対みたいになり始めた。

その時に、従来の活動家の人たちのスタイルじゃなくて、いろいろ文化系の人たちというか、そういう人たちがやり始めたから、ただひたすら抵抗するんじゃなくて、そこを立ち退かせないために毎日そこで大パーティーをやればいいみたいなね。そしたら、もう踏み込む隙を与えないようにしようみたいなことを言っていて、それでライブのイベントがあったり、トークショーがあったり、演劇みたいなのがあって、いろんなイベントが、毎日、だから、何百日とかやったんだよね、結局ね。それをずっとやっていたから、その時に俺はたまたまソウルにいてそれを知って、行って、見た時に超びっくりしてさ。「こんなふざけた抵抗のやり方があるのか？」みたいなね。あれで俺結構すごい感動して。

江上：すごいって言っていましたもんね。すごいことが起こっていると言って。

松本：そう、そう、そう。しかも、それで本当に毎日ものすごい人が集まっていたから、すげーな、みたいな。

江上：それで、このドゥリバンの闘争自体はドキュメンタリーにもなっているんですよ。『パーティー51』って見られた方もいるかと思うんですけど、チョン・ヨンテク監督という方がこのドゥリバンの闘争のずっと最初から最後までドキュメンタリーを作っていて、その中にやっぱりハンバさんであったり、当時、いわゆるインディー音楽家というか、若い非商業的な音楽を追求する若者たちがそこで一緒になって、毎日イベントをしながらどうやって立ち退き反対をしていくかということ話をしていたんですけど、そういうドキュメンタリーがあります。

やっぱりその時に、文化が持つ……芸術が単にそういう“内容”だけではなくて、ある種“問題自体を伝える”ということ。あと、その中に運動に関わっている人たちがまた違う形で、今、松本さんが言ったように、「違う形の抵抗というのがあり得るんだな。」みたいな、この想像力をパッと開くみたいな、1つの事例になったというか。すごくそれは一つ韓国の中でうまくいった、アートと社会運動がある種手を取って、再開発反対という問題に対して、立ち退きに対する保証金を勝ち取るということで最後は終わったんですけども、そういう運動の形があるよということを提示してくれた運動でした。それは僕もこういった形で美術とか音楽とか、あとは社会運動というのに関われるんだなというのは、非常にその時印象深い記憶があります。

だけど、そのドキュメンタリーの後は、実はそういった非常に稀有な場所というか、そういったいろんなことが起こった場所だったんですけども、そのドキュメンタリーのオープニングは、実は、その場所自体が取り壊される、なくなってしまうシーンから始まるんですね。それで、ショベルカーで壊されていく中で、ヤマガタさんがその取り壊されて建物に向けて「ドゥリバン」という名前を言いながら始まるという、そこも一つ場所がなくなっていくところから実はスタートしているドキュメンタリーでした。

韓国の中でそういった社会運動と場所を作るということ、実はハンバさんもその後に自分でお店、本屋さんを立ち上げるんですけども、自分たちで場所を作るという活動に少し移行していったというところ、そのところを個人的に話を聞いてみたいなど。音楽表現もあるんですけども、自分で場所を作るということもし始めたそのきっかけというか、なぜそういった場所を作ろうと思ったのか。

ヤマガタ: 흥대 앞이라는 장소가 정말 중요한데, 흥대 앞에는 어떤 자장이 있었고요, 그 자장이 두리반이라는 곳으로 음악가들을 모이게 했었죠. 흥대 앞에는 어떤 자유의 공기라는 게 있는 것 같습니다.

弘大前[芸術学部が有名な弘益大学校がある学生街]という場所が本当に重要なのですが、弘大前には磁場があって、その磁場がドゥリバンという場所にミュージシャンを集めさせました。弘大前にはある種の自由な空気というものがあるようです。

자유의 공기가 공유되고 있는 곳이기 때문에 자유가 빼앗기는 것을 용납할 수가 없던 거죠.

自由の空気が共有されている場所だからこそ、その自由が奪われることを許せなかったのです。

사실 저희가 두리반에 연대하면서도 이길 거라는 상상은 잘 못했던 것 같아요.

実際のところ、ドゥリバンに連帯しながらも、勝つとはあまり想像できていなかったと思います。

그저 매일매일 두리반에 갔고, 두리반에 함께 한다는 것, 그게 의미가 있었던 것 같습니다.

とにかく毎日毎日ドゥリヴァンに行き、ドゥリヴァンと一緒にいること、それだけで意味があったと思います。

두리반이 그렇게 투쟁에 승리하고 저는 하나의 깨달음을 얻었는데요. 공간을 가지면 안 되겠다, 옳습니다.

ドゥリバンがそうして闘争に勝利して、私は一つの気づきを得ました。空間を持つべきではない、ということでした。

공간을 가지면 자본의 시스템 안으로 들어가는 거니까.

空間を持てば、資本のシステムの中に入るわけですから。

그래서 구루부 구루마라고 리어카, 카트를 끌고 다니면서 흥대 앞을 그렇게 끌고 계속 다니면서 앨범도 판매하고, 노래도 하고 그랬습니다.

それで、グルーブグルマというリアカーを引っ張って、弘大前をそうやって引っ張って回りながら、アルバムも売って、歌も歌っていました。

그래서 저는 두리반에 연대하면서 자립 음악이라는 것을 실천을 하게 됐고요. 자립 음악이라는 것은 자본에 종속되지 않는 그런 음악이고, 구루부 구루마를 통해서 그 자립 음악을 실천했다고 생각합니다.

だから私はドゥリヴァンに連帯しながら、自立音楽というものを実践するようになりました。自立音楽というのは、資本に従属しないような音楽で、グルーブグルマを通して、その自立音楽を実践したと思います。

여러분에게도 그렇게 이야기를 드리고 싶어요. 공간을 가지면 자본에 쫓기게 된다. 그래서,皆さんにもそうお伝えしたいですね。スペースを持つと資本に追われます。

지금 제가 그렇습니다.

今の私がそうです。

공간을 제가 홍대 앞에서 한 4, 5 년 구루부 구루마를 끌고 자립 음악을 실천을 하다가 만리동이라는 예술인들의 협동조합으로 이사를 하면서 만리동은 자유의 공기가 희박하더라고요.

弘大前で4~5年、グループグルマを引っ張って自立音楽を実践していましたが、その後万里洞という地域に移って芸術家たちの協同組合にに入りました。万里洞は自由な空気というのが希薄でした。

그래서 오히려 반대로 제가 자유의 공기를 호흡하고 싶어서 공간을, 저의 힘이 아니라 한 120 명 정도의 사람들의 후원금을 받아서 공간을 얻게 됐습니다.

ですから、むしろ逆に私が自由な空気を吸いたかったので、私の力ではなく、120 人くらいの方の援助でお金を集め、空間を手に入れることになりました。

그래서 현재까지 운영을 해오고 있고, 자유의 공기를 계속 만들어 내려고 시도하고 있습니다.

現在にまで運営を続けていて、そこで自由な空気を作り続けようとしています。

그런 와중에 여기에 오게 되었습니다.

そんな中、ここにたどり着いたわけです。

松本：店はどうなんですか。うまくいっているんですか。

ヤマガタ：잘 안됩니다.

うまくいっていないです。

松本：いっていないのか(笑)でも、俺も、自分はやっぱり高円寺でお店をやっている、やっぱり店はすごい大事だとは思っている。確かに資本に追われることになるから、結局、その世界に入っちゃうとっていうのもあるんだけど、でも、やっぱり、例えば俺もいろんなところでイベントやったりとか、海外の人たちを大量に集めてイベントをやるとかあるけれど。それって結構一時的なイベントで、そこは超開放されているんだけど、それが終わったらいきなり日常生活に戻って、また次の大パーティーがしたい時に戻るみたいなというのは、やっぱりすごいちょっとちぐはぐな感じがして。でかい大パーティーとでかいパーティーの間の日常的な部分にも小さいパーティーを続けたいなと思って、だから、やっぱり俺は店をやっている。

そのドゥリバンってところの大パーティーがある時に来たような感じの人たちが、それが終わったときに、でも、そこに行けば、とりあえずいろんな人と会って、そういう人たちと会える場所を常に24時間体制でそれを作りたいなというのはすごいあった。そういうのがあるからこそ、次の大パーティーが来たときに、そこにいる人たちが毎日飲み歩いたりとか一緒にしていて、「またあるよ、次」みたいな、というのがあるかなと思っていて、だから俺はすごい店って大事だと思っていて、絶対それは残したいなと思っていて。だから、ヤマガタが今店をやっているのって、すげえそういう意味なのかなと思ったんだけど、その辺って、そういうふうに思いのがあるのかなというのはすごい思うんですね。



ヤマガタ：두리반이 매일매일 축제가 있었던 건 아무래도 투쟁의 공간이 되었고 자본의 시스템에서 이탈을 했기 때문에 확실히 그게 가능했던 것 같아요.

ドゥリヴァンで毎日毎日お祭りがあったのは、やはり闘争の空間となり、資本のシステムから脱却したからこそ、それができたのだと思います。

江上：でも、松本さんの場合は、日常の中にそういう場所をずっと持ち続けることで、やっぱりいずれ起こる大パーティーというか、大革命というか、そこに虎視眈々と種火を消さないぐらいの……。

松本：そう、そう、そう、不穏な空気感を常に維持したいみたいなね。そういうのは、俺、結構大事だと思って、常に目論んでいるというか。「何かあったら、いつでも行くよ」みたいな、そういう予備軍みたいな、そういう伏兵みたいなやつ、ああいうのをいっぱい増やしたいなと思って。そしたらやっぱりイベントもそうだし、大きなデモもそうだし、そういうのがあったときに、ブワーってなったときに、「今だ！」みたいな。

だってさ、例えば、ロシア革命とかあったじゃん。あれさ、ロシア革命、一応、共産主義の革命だけど、結局、レーニンとかなんだかんだ偉い人がいっぱいいて、そういう人が指導したことになるけど、そうじゃないんだよ、実は。

実はそうじゃなくて、結局、普段からウォッカとか飲み過ぎて、飲んだくれていようなおっさんとかおばちゃんとか若いやつらとか、そういうやつらが常にいたからこそ、そういうレーニンみたいな人が出てきて、悪い奴はこいつらだみたいな、これだみたいになったときに、ウワーみたいなさ、そのテンションでなったわけじゃん。だから、そういう不穏な空気感というのは常にやっぱり維持しないといけないというか、すげえ思っていて、だから、臨戦態勢の呑んでくれみたいな、それを常にどれだけ増やすかみたいな。

江上：量産していくかみたいな。

松本：飲まなくてもいいんだけどさ、そういう不穏な奴らというか、それが俺すげえ大事だなと思う。だからこそ、やっぱり場所を常に24時間やっている場所をずっと作りたいというか。

江上：ありがとうございます。だから、本当に今日も結構いろんなところから来て、パレードに参加してもらった人たちがいて、やっぱり明らかに、最初に松本さんが言ったように、美術館の前の飲み屋の周りにたむろっている人たちのこの身振りというのは、自然に座って円を囲んで、ビール缶を置いてという、高円寺で普段やっていることをそのままこっちに持ってきているから、どんなに街がきれいとかであっても、そういう振る舞いをできる人たちがいると、やっぱりこの雰囲気も結構大きくいつもと違うなみたいなのをすごく感じて、そういった人たちの振る舞いを種火を絶やさないというのは確かにそうだなと。

だけど、そのためにはやっぱりそういった小さなスペース、自分たちの場所というのを持っているというのは必要だというのは確かにあるのかなと思うんですけど、やっぱり韓国と日本のそういった小さな場所を作るとか、それを運営していくとかいうことに対して、ドゥリバンの後にもたぶんいろんな試みがあったと思うんですけども、松本さんとよく話しているのは、日本はそういった場所を作るという意味では、いろんな他のアジアの国を回っているいろいろ話を聞くと、やっぱり少しやりやすいところがあるんじゃないかと。

それは、法律である種、借り手の権利が守られているんだけど。例えば韓国とか香

港とかだと、そういった借り手の権利というのはなかなか守られなくて、家賃が翌年に倍になったり、すぐ追い出しになったりしていて、やっぱり韓国の中で再開発とか……自分たちの場所を作るといふときに再開発の問題って結構重要なところがあると思うんですけども、それについて状況はどういうふうに変わっていったのかとかをちょっと聞きたい。

ヤマガタ： 저희가 이제 두리반 투쟁처럼 건물주에 의해서 임대인이 내쫓기는 그런 일들이 많았고, 거기에 저항하는 투쟁을 많이 했는데 이런 투쟁만 하다가 나중에는 임대차보호법을 개정하자, 임대인에게 좀 더 권리가 보장될 수 있는 그런 흐름들이 생겨나기도 했어요. 그래서 실제로 임대인들을 보호할 수 있는 그런 법들을 제정하는 데 많은 힘이 되었던 것 같습니다.

ドゥリバン闘争のように、その後も建物主によって家主が追い出されるようなことは多く、私たちはそれに抵抗する闘争をたくさんしましたが、後に住宅賃貸借保護法を改正すると、家主にもっと権利が保障されるような流れが生まれました。そのため、実際に家主を保護できるような法律を制定するのに多くの力があつたと思います。

그런 법 개정을 위한 움직임도 있었고, 또 투쟁은 투쟁대로 해왔었고요.

そういった法改正の動きもありましたし、闘争も闘争として続いていました。

현재는 재개발이나 그런 건물주에 의한 강제 철거 그런 문제가 그렇게 많지는 않습니다.

現在は、再開発やそのようなビルオーナーによる強制撤去のような問題はそれほど多くありません。

현재는 노동자, 비정규직 노동자나 노동자의 해고 문제, 장애인의 차별에 대한 투쟁, 그런 것들이 많이 부각되는 편입니다.

現在は、労働者、特に非正規労働者や労働者の解雇問題、障がい者の差別に対する闘い、そういったものが多く取り上げられています。

松本：その法律ってもうできたんですか。借主の権利を守るような。

ヤマガタ：예, 개정이 됐죠.

はい、改正されました。

松本：できたんですか。じゃ、前みたいに、もう大家さんの権力が超強くて、「はい、

お前ら出てけ」みたいな感じではなくなってきたということですか。

ヤマガタ：예.

はい。

松本：えー、すごい。日本はもともとある程度の権利は強かったけど、今やっぱり自民党とかはどんどんそういう権利をなくそうとして、どんどん、どんどん、今、後退している状態なんですけど、そこで新しいのができているというのはすごいことだなと思いますけどね。

ヤマガタ：그래도 어떤 자본주의의 다양한 문제점들이 있기 때문에 거기에 대한 투쟁은 다른 곳에서 계속 이어지는 것 같아요.

それでも、ある種の資本主義の多様な問題点があるので、それに対する闘争は別のところで続いていると思います。

江上：高円寺もだけど、今言ったように、再開発の問題で実はずっと続いていて。

松本：そうですね。あるね。

江上：それに対してどうストップしていくかみたいところで、結構毎年デモをやったりはしているんですけど。逆に言うと、やっぱり街で自分たちの場所を作るとか、街で生きる、生活をするということに対して、資本のロジックで作られた街というのがいかに自分たちの生活の肌感覚と違うものがいきなり入ってくるのを止めようとするのは、結構アジア各地で共通している一つのテーマなのかなと思います。そういったところでお互いがつながったりするというのもあるんだろうなとも思うんですけども。

あとは、そういったハンバさんがいろんな社会運動の場所で自分が歌うという活動をしていて、そういった場所で歌うことと、そこで歌う曲とか歌詞というのはいつも何かそこに関連付けたものがあるのか、何かそういったテーマで歌っていたりしているのかということ個人的に聞きたいなと思ったんですけど。



路上パフォーマンスの様子 (2024年5月11日)

ヤマガタ： 항상 제가 2003년부터 아마추어 증폭기라는 이름으로 활동을, 노래를 해왔는데 그때부터도 하나의 저의 작곡 방식이라고 해야 되나? 항상 새로운 노래를 만들어간다는 철칙이 저한테 있었고. 그 당시에는 투쟁을 하지는 않았는데 연습하면서 공연을 연습하면서 그 공간에 가서 생각나는 대로 노래를 만들어 왔습니다.

私は2003年から「アマチュアジュンポッキ (アマチュア増幅器)」というグループで歌を歌ってきたのですが、当時から一つの私の作曲方法というか、常に新しい曲を作っていくという鉄則がありました。その当時は闘争はしていませんでしたが、演奏の練習をしながら、思いつくままに曲を作ってきました。

그래서 음악가의 하나의 좋은 자세라고 저 혼자 생각했던 것 같아요.

だから、そういうのがミュージシャンの一つの良い姿勢だと僕自身は思っていたんだと思います。

그래서 두리반 투쟁도 똑같이 두리반 투쟁에서 공연을 하면서 두리반을 생각하면서 만들었던 노래가 있었고.

ですので、ドゥリバン闘争も同じように、ドゥリバンで公演をしながら、ドゥリバンを思い浮かべながら作った曲がありました。

그래서 두리반에서 그걸 공연을 했을 때 열광적인 반응이 있었습니다.

ドゥリバンでその曲をパフォーマンスした時、熱狂的な反応がありました。

그래서 그게 저한테는 좋은 경험으로 남아서 그 뒤로도 투쟁의 공간이나 현장에

왔을 때 투쟁의 주어나 투쟁의 주제를 생각하면서 만든 노래를 항상 가지고 가려고 합니다.

ですから、それが僕にとってはいい経験として残っていて、その後も闘争の空間や現場に行くときは、その闘争の主体や闘争のテーマを考えながら作った曲をいつも持っていくようにしています。

그래서 맨 처음에는 그 공간의 이름, 현장의 이름을 계속 생각해 봅니다.

いつもそういうところに行くと、最初はその空間の名前、現場の名前をずっと考え続けています。

그 이름을 계속 반복하면서 그게 노래가 되는 경우도 있었습니다.

その名前を何度も繰り返して、それが歌になることもありました。

호명한다는 것, 이름을 호명한다는 것, 그 자체가 에너지가 되는 것 같아요.

呼びかけること、名前を呼ぶこと、それ自体がエネルギーになるような気がします。

그렇게 계속 연대를 해오고 있습니다.

そうやって連帯をし続けています。

江上：ありがとうございます。そうですね、今日もやっぱりヤマガタさんがガザのことだったり、反戦のことだったりを歌っていましたが、普段、外でそういった単語を大声で出すという経験を僕らはほとんどしていないので、それをなおかつみんなでその声を出す、それを繰り返し、繰り返し声を出していくということで、こういったことをちゃんと声を出しているんだとか、こういうことはやっぱり声を出さないと、同じように声を出す人がいるんだみたいなことを、ハンバさんのパフォーマンスの中で再確認した気がします。自分の中で見えない自己抑制をしていたとか、自己検閲していたものを出すような、そういった効果というか、そういった力もハンバさんのパフォーマンスにはあるのだなというのをまた参加して改めて思ったんですけれども。

ハンバさんはこういった韓国だけの活動だけじゃなくて、今回も日本に来てこういう公演もしていて、なおかつ、近年はアジアのいろんなところに公演したり、行って、そしてそれを実際に本にまとめられて、今回のトリエンナーレの展示の中の一つでも出しているんですけど、ちょっとこの本について少しどういった本なのかとか、何でそれを書いたのかというのをせっかくなので聞きたいなと思っています。



ヤマガタ・トゥイクスター 展示風景 (撮影：大野隆介)

ヤマガタ：21세기 동아시아 자립음악 연구라는 타이틀입니다.

『21世紀東アジア自立音楽研究』というタイトルです。

자립음악은 상품으로서 자본의 시스템에 포함되는 음악이 아니라 자본에 의해서 쓰러진 사람들에 연대하면서 나오는 음악.

自立音楽というのは、商品として資本の中に含まれる、そういうものではなく、資本によって倒れた人たちに連帯することによって出てきた音楽ということです。

자립음악은 그래서 쓰러진 사람들을 다시 일으켜 세우는 음악이라고 생각을 했고.

自立音楽というのは、倒れた人をまた起き上がらせる、立ち上がらせる、そういう音楽だというふうに思いました。

일본에 갔을 때 코엔지, 구니타치 이런 곳에서 자립음악의 기운들을 느꼈고요.

日本に来て、高円寺だったり、国立というところで自立音楽の機運、オーラというものを感졌습니다。

그래서 동아시아 다른 나라에서도 분명히 이렇게 활동하는 흐름이 있다, 그런 생각을 했던 것 같아요.

だから、東アジアの他の国でも明らかにこのような活動をしている流れがあるはずだ、そんな風に思ったんだと思います。

코엔지에서 NO LIMIT TOKYO 에 제가 참여를 했었고, 거기서 대만의 음악가들을 만났었고, 거기서 또 대만에 가서 현장들을 한번 확인을 했던, 그런 기록들이 이 책에 담겨 있습니다.

高円寺で開催された「NO LIMIT 東京自治区」に僕が参加し、そこで台湾のミュージシャンと出会い、そこでまた台湾に行って現場を確認した、そんな記録がこの本に詰まっています。

그래서 이런 자립음악의 현장들이 동아시아 각지에 있는데 그 지역들이 연결이 돼서 동아시아의 평화, 세계의 평화를 향해서 나아가는 조금 힘이 되어 줄 수 있지 않을까 하는 그런 생각을 합니다.

だから、このような自立した音楽の現場が東アジア各地にあるのですが、その地域がつながって、東アジアの平和、世界の平和に向かっていくための少しの力になってくれるのではないかというようなことを考えています。

오키나와, 제주도 이런 차별받던 지역에 기지들이 계속 생기잖아요. 오키나와의 작은 섬들에도 미사일 기지들이 계속 생기고 있는 것으로 알고 있는데 그런 것들을 계속 알리고 반대를 해야 하는 활동들이 필요한 것 같습니다.

沖縄、濟州島など、差別されていた地域に基地がどんどん出来ていますよね。沖縄の小さな島々にもミサイル基地が続々とできていくと聞いていますが、そういうことをどんどん知らせ、反対する活動が必要だと思います。

두리반에서 마쓰모토 씨를 처음 봤는데요. 그 전에 사실 책으로 먼저 소식을 접했습니다.

ドゥリバンで初めて松本さんにお会いしたんですけれども、実はその前に本を通じて知ったんですね、松本さんのことを。

재밋게 연대할 수 있다는 가능성을 봤던 것 같아요, 마쓰모토의 활동을 통해서. 즐겁게 연대할 수 있는, 그러한 가능성을松本さんの本を読んで感じました.

그것이 두리반에서 실현이 됐고, 마쓰모토 씨도 확인을 했던 것 같아요.

それがドゥリバンで実現されて、それをまた松本さんが確認したということですよ。

江上：答え合わせというか。確かに。ありがとうございます。今、ハンバさんが話していた「NO LIMIT」という高円寺で行われたイベントがあるのですが、それについて、

松本さんちょっと説明とかしてもらっていい？

松本：2016年にやったんですけど、結構いろんなところに、いろんなアジア圏に、今話してもらった感じでアンダーグラウンドの自立音楽の人たち、音楽だけじゃないんだけど、いろんな人たち、いろんな地下の文化の人たちがいっぱいいるというのがどんどん友達の友達みたいな感じで増えてきて、もちろんつながるのはいいんだけど、やっぱり国際的につながるのって中心人物と中心人物がつながりがちなんですよ。それか音楽をやっているとか、芸術をやっているとか、何かやっている人たち同士がつながるのはあるけど、本当にそのコミュニティとコミュニティがちゃんとつながるには、何もやっていない人と何もやっていない人がどうやってつながるかというのがすごいないと、その壁は越えられないだろうなと思って。やっぱりとりあえず訳分らない人たちが全員集まる場所を作りてみたいという。

「いや、ちょっと、俺、何もやってないんですけど、よくこの辺で遊んでいます」みたいな人と、日本のそういう人と韓国のそういう人と、台湾のそういう人と中国のそういう人って言う。「いや、俺も何もやってないっす」みたいな、そういう交流が俺すげえ大事だと思っていて、「でも、あなた、顔面白いですね」みたいな、「飲みっぷりがいいですね」みたいな、そういう感じの交流をしたら、本当につながるんじゃないかなと思っていて。

だから、それをやりたいというのがまず第一の発想でやって、だから、いろんな人たちを無料でなるべく招待して、交通費は自分で払ってきて、その代わり、日本に来たら、もう全部やると。ただ、いろんな例えばライブをやるとか、いろんな表現を持っているとか、能力を持っている人は、自分で勝手に稼いでくれみたいな。でも、ない人は、何でもいいけど、とりあえず全部タダだからみたいなので、アジア圏の人たちの訳分らない人たちをどれだけつなげるかみたいなやつを2016年にやったのが、「NO LIMIT」というイベントですね。

江上：そうですね。本当に300人くらいでしたっけね、その時は。

松本：そうですね。

江上：何もやっていない人たちだけが。

松本：何もやっていない、海外から2、300人の人たちがやって来て、プラス日本の人たちと合流したから、もう完全に意味分らない。ろくでなしとろくでなしが会っちゃ

ったりとかして。それが面白いのが、ろくでなし同士が会って飲んだくれるのもいいんだけど、そのろくでなしたちが海外に行き始めたんですよ、それで。やっぱり何かやっている人たちがつながっていくときは、「自分はこれをやっています」みたいなのが言えるじゃん。だから行きやすいんだけど、何もやっていませんという人は、やっぱりなかなか行きづらかったの、今まで。でも、バカな奴ら同士がどんどん仲良くなったから、「ちょっと飲みに来た」みたいな、そういう感じの交流ができるようになったから、あれはすごい良かったというか。それですごい交流が増えたから、それは良かったよね。

ましてや、今、いろんなところ、各地で戦争とか起こるじゃん。その戦争とかが起こって、それって全部国家と国家の戦争であって、そんなのに巻き込まれるのが超ムカつくし、別に、例えば、今、やたら中国とかで揉めたりとかしているけど、俺、中国人、超友達の中にいっぱいいるし。その辺で飲んだくれている中国人だったりとか、いろんな音楽やったり、芸術をやったり、遊んでいる中国人たちとかは全然うちらと同じ感性を持っているし、そいつらが喧嘩する必要は全くないわけで、だから、やっぱりそれは先にちゃんとこっちはこっちで仲良くなっちゃうのが大事なのかなみたいな。それで、そういうのもあって、その時にだからヤマガタとかも来てくれたから、すごい良かったですけど。



路上パフォーマンスの様子（2024年5月11日）（撮影：大野隆介）

江上：だから、ヤマガタさんが言っている連帯というの、やっぱりそういった普段というか、少しずつ積み上げた関係の中で連帯と言っているの、それが言葉としてちゃんと実感が伴っているというか、実感がある言葉としての連帯なんだというのはいつも思うし、それで今回もこうやって皆さん来てくれたというの、一つの連帯の形なんだ

ろうなと思っています。

あと、ちょっと少し話をして、会場の皆さんからも質問とか意見とかをお聞きしたいなと思うんですけども。こういったつながりがアジアの中で出てきたと思うんですけども、それでもやっぱり僕らから見て、これは日本人から見て、アジアの人たちと出会うという経験はいろんなところで話す機会もあるんですけども、ハンバさんから見て、アジアということを意識するとか、アジアの人たちと連帯するみたいな感覚がある種実感を伴って感じられてきたという経験とかいうのはあるのかということと、それで、なかなかそうは言っても、やっぱり難しいとか、ここは違うな、例えば日本人たちと少し認識が違うな、みたいなことと違ってたぶんあると思うんですけど、そういったところってありますか。

松本：確かに、本とかを出したきっかけって、たぶんいろんなアジア圏に行ったと思うので、その感想を聞きたいよね。

ヤマガタ：아무래도 2011 년에 후쿠시마 원전 사태를 겪으면서 훨씬 더 하나의 이론으로서 생각을 하게 됐던 것 같아요. 핵발전을 다 같이 하니깐 그렇게 느꼈던 것 같아요.

やはり 2011 年に福島原発事故を経験して、より一層、一つの理論として考えるようになったのだと思います。韓国も原子力発電を一緒にやっているからそう感じたのだと思います。

그리고 후쿠시마라는 곳이 도쿄로 전기를 보내기 위해서 어떻게 보면 희생당하는 입장이잖아요. 거기에 연대를 해야 된다고 생각을 했던 것 같아요.

そして、福島という場所が東京に電気を送るために、ある意味犠牲になる立場なんですよ。そこに連帯をしなければいけないと思ったんだと思います。

그런 감각들을 계속 키우고 있는 것 같습니다. 그리고 사실 한국에 아시아를 생각하는 그런 흐름들이 많진 않아요.

そういうことをしながら、感覚を養い続けているようです。そして、実は韓国にはアジアを考えるような流れがありません。

제 이런 연대에 활동들이 조금은 그런 어떤 무관심들을 관심으로 돌리는 데 조금은 도움이 되지 않을까 합니다.

私のこのような連帯への活動が、少しはそのような無関心から注意を向けるのに役立つ

のではないかと考えています。

좀 더 노력하겠습니다.

もう少し頑張っていきたいと思います。

松本：海外に行って、例えば日本もそうだし、台湾とかに行ったりとか、中国とかもいろいろ行ったんですね、この本の時に。その時にいろんなヒントとかあったりした？
「これはすごい！」みたいな。

ヤマガタ：홍콩 같은 경우에는 많이 드러나지 않게 해야 된다는 그런 것들을 봤던 것 같고요.

香港の場合、あまり目立たないようにしなければならない、そういうふうなことをよく見た気がします。

대만에 갔을 때는 그런 새로운 음악가들의 커뮤니티를 봤었고, 거기서 하나의 흐름들이 나올 수 있지 않을까 하나의 흐름들이 있었는데 그 흐름들이 조금 가라앉은 그런 느낌이 들었고, 뭔가 새로운 흐름들이 나오지 않을까 하는 찰나에 코로나 사태로 더 이상 방문이나 연구를 할 수 없는 상황이 닥쳤죠.

台湾に行ったときは、新しいミュージシャンのコミュニティを見たことがあって、そこから一つの流れが生まれるのではないかと考えたのですが、その流れが少し停滞したような気がして。何か新しい流れが生まれるのではないかと考えていた矢先に、コロナ禍でこれ以上訪問や研究ができない状況になってしまいました。

松本：今、台湾、超いっぱいありますよ。若い奴らがもう。

ヤマガタ：코로나 터졌을 때 초대를 하려고 했었는데 결국은 못 했습니다.

코로나が発生した時に招待しようと思ったのですが、結局できませんでした。

중국은 잘 몰라요. 가본 적이 없어서.

中国はまだ行ったことがないので、ちょっと分かりませんね。

江上：本の最後で、インドネシアに行った時にインドネシアにある韓国のギター工場で働いている人たちの連帯を最後にしに行った、というところでお話が終わっていて、そこがすごく象徴的だと思ったんですけど、そこについてもうちょっと聞きたいなと思って。

ヤマガタ：NO LIMIT JAKARTA に 가면서 콜트콜텍이라는 기타 공장이 인도네시아 수라바야라는 곳에 있는데, 콜트콜텍기타 노동자들이 해고를 당하고 계속 10 년 가까이 투쟁하는 상황이었고, 거기에 연대를 하러 갔었죠. 자카르타 수라바야에 있는 콜트콜텍기타팩토리에 노동자들 함께 투쟁하자 그런 메시지를 전하면서 그렇게 했는데 갑자기 폭우가 내렸고 많은 공연을 할 수가 없는 그런 상황이었다 것 같아요. 그래서 몇몇 노동자들에게 그런 메시지를 알리고 그랬던 기억이 있습니다.

NO LIMIT JAKARTA に行きながら、コルト・コルテックという韓国のブランドのギター工場がインドネシアのスラバヤというところにあるのですが、コルテック社の労働者が解雇されて10年近く闘争を続けている状況で、そこに連帯をしに行ったことがあります。労働者たちと一緒に闘争しよう、そんなメッセージを伝えながら行ったのですが、突然大雨が降ってしまい、多くのパフォーマンスをすることができないような状況だったと思います。それで、何人かの労働者にそんなメッセージを伝えていた記憶があります。

그땐 경비아저씨가 저를 끌고 내동댕이쳤죠. 그렇게 해서 공연은 중단을 하고 택시 기사님이 저희를 계속 이동시키면서 했었는데, 택시를 타고 다시 돌아가는 공항으로 돌아가는 시점에 뒤에서 노동자가 쫓아왔어요. 연대하겠다고. 그런 메시지를 알리고 갔습니다. 그게 저한테는 기억에 많이 남아있어요.

その時は警備員のおじさんが私を引きずり降ろしたんです。それで公演は中断して、タクシーの運転手さんが僕らを乗せてくれて移動しようとしたんですけど、タクシーで空港に戻る時に、後ろから労働者が追いかけてきたんです。連帯する、と。そういうメッセージを伝えてきました。それが僕にはすごく印象に残っています。

江上：ありがとうございます。その話を聞いて、こんなところまで……東南アジアのジャカルタ、インドネシアに行って、そこまで行くんだって、結構僕はびっくりしました。やっぱりヤマガタさんが見ている視点、常にこういう立場の弱い人たちのところに自分が身がある意味投げ出す。そして、それを支え、その傍らにいようとする。基本的にずっとこの姿勢が続いているというか、それが音楽という形とかパフォーマンスという形になっているんですけども、やっぱり軸としてはある種の倫理的な態度というのがずっと続いていて、そこを考えながら表現をしている人というのがやっぱり自分のイメージネーションとか想像力というものを頼りに新しいものを作っていくという想像の在り方もあるんですけども。僕は、そこにハンバさんが作っているものというのは、常にそういった人たちに向けての想像力というのが非常に軸にずっとあるんじゃないかな

というのを感じて、今回のその話も聞いていて、すごくそういったことを思いました。ここから少し皆さんの質問とか意見とかを、マイクを渡したいなと思うんですけども、もし何かある方いらっしゃれば。

参加者：展示だけで分からなかったことが今回の話を聞いてより深く分かったんですけども、資本論的な社会問題についてすごく考えていらっしゃる反面、こういったパフォーマンスで、いわゆるユーモアとかエンターテインメントで壁を乗り越えて、まず受け入れさせた上で、その上で深く考えてもらいたいな、こういう戦略というのがとても面白いなというふうに感じました。

ちょっとお尋ねしたいのですが、ヤマガタさんのそのファッションのスタイルですね。トレードマークみたいに十字架、ちょっと赤十字のマークなのか、あるいは韓国はキリスト教が多いじゃないですか。赤い十字架はカトリックで、白い十字架がプロテスタントみたいな目印があったみたいな話も聞いたことがあるんですけども、ちょっとそのトレードマークになっているその十字架の由来とか、あとファッションですね。あと、DJ をやりながらダンスというスタイルは、音楽家の後に始まったのか、もともとダンスとかに興味があったのか、そこら辺のスタイルについてちょっとお伺いしたいんですけども。



(撮影：大野隆介)

ヤマガタ：저도 이제 원래 춤을 추는 사람인 줄 몰랐습니다.

私も今となっては、自分が元々踊る人だと知らなかったんですけど。

고등학교 때 방안에서 음악을 틀어놓고 춤을 춰봤는데 뭔가 해소되는 느낌이 있었어요. 해방되는 느낌?

高校生の頃、部屋で音楽をかけながらダンスを踊ったことがあるんですけど、何かすっきりするような感覚がありました。解放されるような感覚というか。

그리고 대학교 들어가서는 클럽을 많이 다녔죠. 댄스 클럽을.

そして、大学に入ってから、クラブにたくさん行ったんですね。ダンスクラブに。

춤추는 게 너무 좋으니까.

踊るのが本当に好きで。

음악은 펫샵보이즈를 많이 좋아했어요.

音楽は、ペット・ショップ・ボーイズが好きだったんですね。

그래서 투쟁 현장에서 펫샵보이즈처럼 공연하면 좋겠다는 생각을 계속 갖고 있어요. 그래서, 闘争の場でペット・ショップ・ボーイズのようなパフォーマンスができればいいなと思いつけています。

오늘도 그랬는데, 매번 이렇게 노상 거리에서 공연할 때 저의 상상 속에서는 도쿄 돔입니다.

今日もそうでしたが、毎回こうして路上でライブをするとき、私の想像の中では東京ドームなんです。

그렇기 때문에 패션도 하나의 음악가로서 준비해야 되는 것이죠.

だからこそ、ファッションも音楽家として準備しなければならないのです。

노래를 준비하는 것처럼 의상도 준비하는 편입니다.

歌を準備するのと同じように衣装も準備する。そういう感じです。

그리고 저는 민중 엔터테이너라고 소개를 하거든요.

私は自分のことを、民衆エンターテイナーというふうに紹介するんですけども。

그래서 저는 매스미디어를 통해서 보는 대중들을 향해 공연하는 것이 아니라

엔터테인먼트를 하는 것이 아니라, 거리에서 투쟁하는 민중을 향해 엔터테인먼트를 하고 싶은 거죠.

だから私は、マスメディアを通して見る大衆に向けて公演をするのではなく、エンターテインメントをするのではなく、路上で闘う民衆に向けてエンターテインメントをした
いんです。

이것도 어떤 의미가 있다기보다는, 의상을 준비하다가 어떤 빈티지 샵에서 눈에
보여서 구입을 하게 됐고, 그 뒤로 잘 쓰고 있습니다. 왜냐하면 잘 벗겨지지
않아서요.

この十字架ですけど、何か意味があるというよりは、衣装の準備をしているときに、
あるヴィンテージショップで目についたので購入することになり、それ以来、よく使っ
ています。なぜなら、なかなか剥がれないからです。

그리고 또 의미가 간호사, 도움을 주는, 상처받은 사람들에게 도움을 주는 그런
의미도 있는 것 같아요.

意味は看護師、傷ついた人を助けるという、そういう意味があるかなと思います。

江上：ありがとうございます。もし他にどなたかいれば、質問とか意見とか。大丈夫で
すかね。

参加者：日本語の本は出ないんですか。読みたいので。

ヤマガタ：생각은 계속 하고 있습니다.

考えてはいます、ずっと。

松本：出版社の、編集者の人がいますよ。

参加者：神保町の chekccori という本屋さんで取り寄せたんですね。

ヤマガタ：기억합니다. 감사합니다.

あー、覚えています。ありがとうございます。

松本：お願いします。

参加者：読みたい。

ヤマガタ：꼭 내겠습니다. 일본어로. 감사합니다.

絶対に出します、日本語で。どうもありがとうございます。

松本：素晴らしい。

江上：あと、もし他にあれば。

参加者：万有書店の意義、役割についてお聞かせください。

江上：ヤマガタさんのお店についてもうちょっと。

ヤマガタ：만유인력은 이름이 왜 만유인력이나 하면, 만리동에 있다는 거거든요. 만유. 거기서 차용을 했습니다.

「万有引力」という名前なんですけれども、何で万有引力かというと、韓国語では「반」が「万」なんですけれども、万里洞という場所の名前から取ってきています。

만유인력으로 하고 보니까 이제 인력, 끌어당기는 힘, 그런 끌어당기는 힘을 만유인력에서 서로가 얻었으면 좋겠다는 그런 생각을 하게 됐어요.

万有引力でやってみて、今度は引力、そういう引き寄せる力を万有引力からお互いに得られればいいなというようなことを考えるようになりました。

그래서 원래 계획은 아까도 얘기했지만 24 시간 계속 운영이 되는 책방을 여는 거였고, 그 모티브는 대만에서 얻었죠.

それで、当初の計画は先ほども言いましたが、24 時間営業の本屋を開くことで、そのモチーフは台湾から得たんです。

밤에 길 잃은 사람들이 들어와서 다시 방향성을 다시 얻고, 가는 그런 상상을 했던 것 같아요.

夜、道に迷った人が入ってきて、再び方向性を取り戻し、去っていく。そんな想像をしたんだと思います。

제가 흥대 앞에서 느꼈던 그 자유의 공기를 만유인력에서 계속 발산하고 싶습니다. 지금도 계속 운영을 하고 있습니다.

私が弘大前で感じたあの自由な空気を、万有引力から発散し続けたいです。今も継続して運営しています。

서울에 오시게 되면 꼭 들리주세요.

ソウルにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

松本：今、そのお店に来る人たちってどんな感じなんですか。近所の人たちが来る感じ？それとも、いろいろそういうメッセージじゃないけど、ヤマガタさんのやっていることに興味ある人が来るとか、どういう客層でどんな感じなんですかね。

ヤマガタ：아무래도 홍대 앞에서 많이 옵니다.

やっぱり弘大から来ますね。

지역 주민들은 걱정하세요. 문 닫을까 봐.

地域の住民は心配してくれています。もう潰れるんじゃないかと。

松本：近所の人たちは仲良くやっているんですか。

ヤマガタ：네, 잘 지내고 있습니다. 처음에는 조금 적응을 못 하셨어요. 근데 지금은 많이 잘 지내고 있습니다.

はい、仲良くやっています。最初は、ちょっと慣れずにあれだったんですけど、もう今は良い関係ができています。

江上：じゃ、最後。

参加者：すみません、今、紹介がありましたドゥリバンについて、実は、当事者の小説があるんですね。ドゥリバンの店の主の夫にあたる人が作家なんですけれども、その人が十数年前に書いた本があるんですけれども、それを翻訳しまして、15年前の話だから、こんな話を誰が読むんだとって、それでもう出すのを非常にためらってまして、数年間ずっと持ちっぱなしだったんですけれども、でも、ずっと持っていて腐らせてもしょうがないから、そろそろしょうがなしに出したんですよ。

それが先週というか、もう今週で、講談社の小説投稿サイトに、まだ最初の数章しか出してないんですけれども、よろしかったらご覧ください。タイトルは……小説サイトって結構異世界転生ものとかが多いじゃないですか。あの異世界転生ものの良いところは、

タイトルを見れば大体中身が分かるということなので、でも、原題をそのまま訳しちゃうとどういう内容だかがよく分からないと思って、それに倣って、『韓国の売れない小説家がインディーミュージシャンとともに地上げと闘う話』、そういうタイトルにしましたので、ちょっと詳しいところは違うんですけども、ぜひ検索して、講談社の、何と言いましたっけね、講談社の小説投稿サイトで検索すれば出てくると思いますので。

江上：すごい。

参加者：ネットだけ？紙では？

参加者：ネットで。紙の出版はちょっと失敗しまして。

松本：いや、もう勝手に作りましょうよ、それ。勝手に印刷しちゃえばいいじゃないですか。その辺で勝手に売ればいいし。

今政：NOVEL DAYS って書いていますね。『韓国の売れない小説家がインディーミュージシャンとともに地上げと闘う話』。

参加者：分かりやすいのが一番かなと思って。よろしくお願いします。すみません、勝手に宣伝してしまいました。

江上：なんか徐々にいろんな本の可能性が出てきたんですけど。

松本：本って意外と重要なんですよね、本当ね。やっぱり最近ってもう情報過多の社会で、もうネットとかでいくらでもあるし、もう本当にものすごい情報を知ることができるけど、やっぱり本とかになっていると、やっぱりこれが1個言いたいことなのかなみたいな、セットになってちゃんとあるから、やっぱりそれを読んでもくれる人というのはちゃんと伝わるというか。



(撮影：大野隆介)

江上：本当、本でいったら、ここの、今、向こう側に展示している中国の作家のグループで、プリックリー・ペーパー（刺紙）というグループがいますね。

松本：このずっと突き当たりのところに展示が。

江上：彼らも本を自分たちで作るという方法を通じて、中国各地の友人たちを通してネットとか表立って話すことが難しいテーマについて共有するみたいな活動をしていて。やっぱりアジア圏は今結構ネットがだんだん窮屈になったり、監視の対象になっている中で、やっぱりもう一回紙と書に戻るみたいな。

松本：特に中国が面白いんですよ、今。中国はいろんなネットとかの監視とか、あるいはちょっとでも歯向かいそうな奴とかを鎮圧する感じがすごいので、だから、みんな例えば本とかを出すときに、出版社を通してほぼというか、ちょっとメッセージ性があったら却下されたりとかが結構あるので。だから、俺なんか日本で本とかを出したりとかするんですけど、その中国翻訳版が出るとなったときに、もうめちゃくちゃ検閲でもう引っかかって、もう何回も。二個出版社も駄目で、今三個目なんですけども、それでもいろいろ、ここを修正したらいいみたいな、そこは修正できないよみたいな、そういうやりとりがものすごいっぱいあって。でも、結局、中国の人たちのすごいのはやっぱり裏技に長けているというか、出版できるんだったらいいけど、一応そっちはそっちで目指しつつも、勝手に海賊版をどんどん作って売りますよね。

もう死ぬほど海賊版を作って、売って、その海賊版を作っている人の、その海賊版の出

版をやった出版社の人と正規の出版社の出版社の人がいて、俺もそこに呼ばれて、一緒に出版記念イベントをやったりとか、結構意味分らないことになったり。でも、中国のその大らかさのいい加減さが良くて、「うーん、まあ、大丈夫でしょ」みたいなという、いろんな裏技をみんな使ってそういうアンダーグラウンドでバーってやっていて、でも、中国でも出版もやっぱりアンダーグラウンドで勝手に自費出版をやるとしても結構それも弾圧されるんですよ。

印刷所で勝手に刷るんだけど、その印刷所で大量に刷ったら、その印刷所にそういう手入れが入るから、だから、やっぱりいろんな、今日は上海で100部刷る、明日は北京で100部刷るみたいな、そういういろんな裏技を使ってバーって作って、それでバーって巻くみたいな、そういう裏技をみんな持っているし、それで手に入れた人というのは、すごい特別感があるんです。「ついに、ついに、これかー！」みたいな感じで読むから、だからものすごいテンションが上がっちゃったり。逆に本が今すごい面白い感じがするので、だからヤマガタさんの本を日本でやるのはものすごい面白いと思う。「うわっ、これだ！」みたいな。

江上：確かに、確かに。あと、どうでしょうかね、あと、もし最後にどなたかあればと思うんですけども。もしなければ、今後のヤマガタさんの活動とかお店のこととかをどういうふうに展開するとか、そういったところも聞いて、松本さんも、お二人とも聞いて。

ヤマガタ：일단 내일 또 합니다. 내일도 같이 해요.

まず、パフォーマンスを明日もやります。明日も来てください。

한국 가서도 계속 연대 공연을 할 것이고 민중 엔터테이너로서 조금씩 발전하는 모습, 성장하는 모습, 여러분한테 보여드리겠습니다.

韓国に帰っても連帯パフォーマンスをずっと続けますし、民衆エンターテイナーとして成長していく姿を皆さんにお見せできればと思います。

감사합니다. 일본에서 꼭 책 내겠습니다.

どうもありがとうございます。日本で本を必ず出します。

江上：じゃ、松本さんも何か最後に。

松本：俺は高円寺でリサイクルショップをやっています。いろいろゲストハウスとか飲

み屋とかもやっているんですけど、本を書いたりとか、いろんなイベントをやったりするんですけど、やっぱり一番メインのところはリサイクルショップなので、そこがあってこそ他のことができるので。リサイクルショップが潰れたら全部潰れるので、洗濯機、冷蔵庫、本棚、机、テーブル、もしご不要なものがあれば、いつでも言ってもらえば買い取りに行きますので。もし必要なものがあれば、言ってくれれば、安く売るので。もしよろしければ、よろしくお願いします。

江上：本当に、今日は長い時間参加していただいてどうもありがとうございました。そして、ヤマガタさん、松本さん、そして通訳をしていただいた今政肇さん、そしてこの回をセッティングしてくれた横浜トリエンナーレ事務局の皆さん、どうもありがとうございました。展示も、まだ時間どうですかね、ギリギリいけるのかな。またぜひ見てってください。



(撮影：大野隆介)